高く 強く

特集1 *FIRE FIGHTERS*

あなたの“もしも”を**守る**ために

消防は「砦」

―砦は強く、高くあれ―

もしも、火災や事故が起きたら。

もしも、目の前で人が倒れたら。

こうした「もしも」の時に、迅速に駆け付け、生命と財産を守るためにあらゆる現場の最前線で活動する「消防士」。

市消防本部では、３６６人の消防士が、消火や救急活動などの人命救助のための業務に加え、火災や災害などによる被害を未然に防ぐための業務にあたっています。

これら全てに共通することは「守り、助ける仕事」であり、終わりのない業務であること。だからこそ彼らは人一倍強い意志と正義感を持ち、その思いをかたちにするため、絶えず技術と知識の習得に励んでいます。

私たちの大切な日常をいつでも、どこからでも守ってくれるプロ組織。その陰には、普段知ることのない、たゆまなき努力と鍛錬があります。

また、私たちの身近な場所で、消防・防災・警戒など献身的な活動を行っている消防団の皆さん。

本特集では、大切な人、財産、そして地域の未来を守る「砦」として活動する消防士の業務や思いを紹介するとともに、地域防災の要である消防団の方の声や魅力についてお伝えします。

いわき市長
内田　広之

地域の消防団員をご存じですか？

各地域で、日頃は、大切なご家庭やお仕事を持ちながら、火災や災害など、有事の際には、昼夜を問わず現場に駆けつけ、市民の命と財産を守っている勇敢な皆様方です。

これら消防団員の方々は、先の台風第13号の折に、人命救助や災害復旧に、大いにお力を発揮いただきました。その顕著な行動力を讃えて、各支団に表彰を行う予定です。各団員の地域を守る崇高な志は、いわき市の『大いなる宝』です。

感謝の気持ちしかありません！

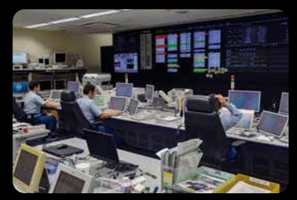
いわき市消防長
谷野　真

消防の仕事は、市民の皆様の声を直接、肌で感じることができるのが魅力の一つです。現場活動後の「ありがとう」の掛け声には、消防という仕事に対する誇りとやりがいを感じられます。

昨今、大型台風や線状降水帯など、想定をはるかに超える自然災害が頻発しています。このような中、消防に寄せる期待は益々大きくなってきており、市民の皆様が安心に暮らすことができるよう、さらに日々の訓練に取り組んでまいります。

消防士の一日

24時間
隔日勤務



夜間勤務

夜間は、適宜仮眠を取りながら、１時間毎に交代で電話対応などの夜間勤務を行っています。

訓練指導、各種検査

消火・通報・避難誘導をスムーズに行えるよう、事業所での指導や各種検査などを実施しています。

各種訓練

現場を想定した訓練を行います。写真左は、引揚訓練（常磐消防署）、右は梯子訓練（平消防署）の様子です。

大交替

人員の確認を行い、前日の当番員から任務を引き継ぎます。

8：30 大交替 引継ぎ（帰宅）
7：00 起床・清掃
22：00 夜間勤務 仮眠
19：00 事務処理、研修、打合せ
18：00 夕食休憩
13：00 訓練指導、各種検査、水利調査、広報活動
12：00 昼食休憩
10：00 各種訓練
9：00 車両・資機材点検
8：30 大交替 引継ぎ

事務処理等

火災調査等の各種書類作成など内勤の仕事もあります。

水利調査、広報活動

管轄内の消火栓や防火水槽などを確認します。火災予防運動期間中など、さまざまなイベントを実施し、防災への意識醸成を図っています。

休憩時間

食事を取る以外にも自主的に筋トレなどをしています。

車両・資機材点検

各車両および積載されている資機材の点検を行い出動に備えます。

国際消防救助隊（通称:IRT）

International Rescue Team of Japanese Fire-Service

選ばれし６人の精鋭

国際消防救助隊とは、海外で大規模な災害が発生した場合に、救助チームとして被災国へ派遣され、救助活動を行う特別な部隊です。

全国77消防本部から選抜された救助隊員599人で構成され、いわき市消防本部では厳しい訓練や試験をクリアした６人の隊員を登録しています。

まさに、救助における日本代表と言えます。

常磐消防署　消防士
志賀　莉奈さん

“安心感”を与えられるように

子どもの頃に、近所で火事があり、実際に消火活動を行う消防士の姿を目の当たりにし、憧れから消防士を目指しました。

採用されるとすぐに県消防学校（福島市）で半年間、消防に関する知識や技術を学びました。一番印象的だったことは、“仲間（チーム）”を感じることができたことです。仲間同士が互いに励まし支え合い、苦しい訓練も乗り越えることができました。

災害現場は、恐怖感や不安感に駆られる場所です。そうしたときこそ安心感を与え、子どもや女性に寄り添った救助ができる消防士になりたいです。

平消防署　消防士長
丸山　剛さん

“憧れ”でありたい

中学校の職場体験で平消防署を訪れたこと、そして大学生の時に令和元年東日本台風のボランティアに参加したことがきっかけで憧れが強くなり、消防士を目指しました。

今年で４年目となりますが、自分自身がそうであったように、子どもたちの「憧れの存在」であり続けたいと思っています。

まだまだ、先輩消防士の背中を追う日々ですが、自分が憧れた消防士。いつか自分もその憧れとなれるよう、知識と技術を学び、市民の皆様の大切な命と財産を守るため、全力で取り組んでいきます。

常磐消防署　消防司令補
渡邉　直子さん

未然に防ぐことが“最重要”

「人を助けられる仕事」がしたいと思い、民間企業･教育現場を経て消防士に転職しました。

現在は、消防設備の審査・検査など災害を未然に防ぐ予防業務（日勤勤務）の仕事をしながら、夫婦で２児の子育てをしています。

予防業務は、一見地味ですが、多くの命や財産を守るためには、災害を未然に防ぐことが最も重要で、この業務に大きなやりがいを感じています。

今後は、予防業務の高度化に加え、女性職員それぞれが自身の目標実現に向けた職域を増やす手助けをしていきたいです。

消防本部警防課　消防司令
長谷川　秀明さん

消防とは“チーム”

指揮隊の大隊長として、建物火災や大規模災害時における消防部隊の適切な活動のための指揮をしており、現場の状況を冷静に見極め、判断をし、市民の皆様の役に立ちたいという気持ちを持って現場に臨んでいます。

近年では高層ビルや大規模な工場での火災など災害が複雑化しており、人命救助のためには、チームとしての連携力強化や資機材導入などの対策を講じることも我々の重要な仕事です。

消防の仕事は“やりがい”を感じることができる仕事です。これからも地域を守るため、邁進していきます。

地域防災の要　消防団

「自分自身が成長できる場所」

市消防団　第５支団第２分団第１班
（内郷宮町）

班長　**熊野　翔太** さん
会社員（植田電機㈱：市消防団協力事業所）

Q. 台風第13号時の活動について

自宅や実家も被災した中での活動だったため、非常に大変でした。班長として、この地域を守っていくという使命と責任を果たすため、弱音をぐっと飲みこみ、仲間たちと連携し、困っている人を助けたい、その思いで活動しました。

Q. “やりがい”を教えてください

消防団に入団し、今年で10年目になります。

この10年を通して、大きく変わったことがあります。それは、自分自身の成長です。団のさまざまな活動や訓練を重ねることで「地域を守る」という思いが強くなり、それと同時に、責任感や仲間・地域との絆が生まれ、濃くなっていく。こうした経験こそが自身の成長となり、社会人として父親として、そして班長として地域の役に立てることが最大のやりがいだと思っています。

「女性だからこそできる活動を」

市消防団　第３支団第８分団第４班
（田人町旅人）

団員　**鈴木　祐佳** さん
会社員（㈱ステップワン）

Q. 消防団に入団したきっかけは？

高校生の時、消防団員の兄が規律訓練をしている姿を初めて目にしたとき、息の合った行進をする姿に目を奪われ、率直にすごいと思いました。そして、兄に誘われ、本年６月に入団しました。

Q. どんな活動をしていきたいですか？

団員全体も人出不足ですが、特に女性団員が少ないので「女性団員だからこそできる活動とは何か」を女性団員の皆さんで集まって意見を出し合う機会があれば嬉しいです。

私が感動した規律訓練や研修で見かけたラッパ隊など、世間にはなかなか知られていない活動がたくさんあると思います。私たちが何をしているのかを知ってもらうことで、入団を迷っている人の背中を押してあげたいです。

地域を守る「ヒーロー」

火災や災害が発生した際、地域を守るために自宅や職場から駆けつけて奮闘する人たちがいます。消防士と協力して地域の安全・安心を守っている存在が「消防団」です。

特殊な装備や車両、資格を所有し、日々高度な訓練を積んできた消防士。地域の地理や実情に精通し、いち早く現場に到着して被害を食い止める消防団。

両者の連携力こそが地域防災の要であり、どちらかの存在が欠けてしまっても私たちの暮らしは守れません。

本市の消防団には、3117人（令和5年10月1日現在）が在籍し、さまざまな世代や職種の人たちが異なる立場から消防防災に関する意見を出し合い、平常時・非常時を問わず地域に密着した防災活動を行っています。

このように地域に欠かせない消防団ですが、人出不足は年々深刻な状況に置かれており、新しい仲間を必要としています。

「もしも」の時は突然やってきます。そうした時、守られる側から家族や地域を「守る側」となって、新たな仲間とのやりがいを見つけてみませんか。

人を救い、地域を守るために、日夜、尽力されている「消防団」。こうしたヒーローたちが私たちの身近にいることを忘れてはいけません。

一緒に地域を守りませんか

～“暮らすまち”から“守るまち”へ～

市消防団では、消防団員を随時募集しています。本市に住所を有する18歳以上の方で、興味のある方は近くの消防団か消防本部総務課（☎22-0120）へご連絡ください。

詳しくは、市消防本部ホームページをご覧ください。